

キャリア開発のための基礎的スキルに関する研究 Research on the Fundamental Skills for Career Development

藤 木 清*

Kiyoshi FUJIKI

竹 田 茂 生**

Shigeo TAKEDA

抄 録

大学生の1年次4月と10月時点における基礎的なスキルに関する自信を比較したところ、半年間でコンピューターの活用力や文章作成能力などで自信を深めている学生が多い反面、リーダーシップやプレゼンテーションなど、人をリードすることや人前に出ることには自信を弱めている学生が少なからず存在することがわかった。また、大学間で違いはあるものの、いくつかの基礎的スキルに対する自信に相関関係が認められた。

1. はじめに

現在、18歳人口の減少にともなって、大学がユニバーサル化し、大学生によって、入学時に身につけている学力、技術、知識のばらつきが大きくなっているといわれている。そのような状況の中で、高校と大学との接続がクローズアップされてきており、大学生活へのスムーズな移行が一つの課題となっていると言えよう。

例えば、講義の聴き方、テキストの読み方、レポート・論文の書き方、図書館などの利用法、プレゼンテーションの仕方など、スタディ・スキルの習得を授業として実施する大学が増えてきており、そのためのテキストも開発されている。さらに、スタディ・スキルにとどまらず、クリティカル・シンキング、コミュニケーション能力、自己分析力など、いわゆるキャリア開発を初年次から実施する大学も現れてきている。

本稿では、キャリア開発の基礎となるスキルの習得に対して、学生がどのような意識を持っているのか考察してみたい。

なお、本稿は文部科学省平成13～15年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)(課題番号:13410088 研究課題名:ユニバーサル高等教育における導入教育と学習支援に関する研究 研究代表者:濱名篤)の成果の一部である。

* 関西国際大学経営学部

** 関西国際大学人間学部

2. 「高等学校から大学への移行と適応過程に関する調査」より

2. 1 基礎的スキルの習得に対する自信の2時点比較

まず、平成15年4月、10月に行われた「高等学校から大学への移行と適応過程に関する調査」から、キャリア開発の基礎的スキルに関する質問項目に焦点を当てる。

調査では、表1に掲載した15の項目についてどの程度自信をもっているかを5段階法でたずねている。自信が「ある」を5、「どちらかといえばある」を4、「どちらともいえない」を3、「どちらかといえばない」を2、「ない」を1としている。

表1 自信に関する質問項目

a. 大学の講義の理解度	f. リーダーシップ	l. 自己理解
b. 教養の深さ	g. 数学的思考	m. 文章作成能力
c. 流行しているモノや話題の多さ	h. 体力	n. 高校までの勉強
d. コンピューターの活用力	i. プレゼンテーション能力	o. 自分は「やればできる」という自信
e. いつも冷静でいること	j. 知性	p. 努力をすること
	k. 人付き合いや対人関係	

まず、単純に各月の得点の平均値を比較して各項目に関する自信の推移を見てみよう。結果は表2である。

全体として、「p. 努力をすること」を除けば、4月よりも10月の方が平均値は高くなっている。有意差が大きい項目をあげてみると、「a. 大学の講義の理解度」、「b. 教養の深さ」、「d. コンピューターの活用力」、「g. 数学的思考」、「j. 知性」、「m. 文章作成能力」、「n. 高校までの勉強」である。中でも「d. コンピューターの活用力」、「m. 文章作成能力」、「g. 数学的思考」、「n. 高校までの勉強」は相対的に伸び幅が大きく、すべての大学で有意差があった。ただし、「g. 数学的思考」は他の項目に比べて平均値が低い。

以上の点について若干考察してみると、入学後、初学期の大学の授業についていくことができ、入学前から積み上げてきた学習結果に自信が持てるようになった学生が多いのかも知れない。特に、「d. コンピューターの活用力」、「m. 文章作成能力」、「g. 数学的思考」の伸び幅の大きさは、これらの項目について力が付いたかどうかを自分自身で判断しやすいこと、また、程度の差はあるにせよ、比較的多くの学生がこれらの項目の力が付いたと感じている結果ではないだろうか。

一方、「f. リーダーシップ」、「i. プレゼンテーション能力」は平均値が低く、しかも伸び幅も小さい。これらの項目は日本人の学生が最も苦手とする技術であることの現れではないだろうか。もっとも、彼らは「k. 人付き合いや対人関係」にまったく自信がないわけではなく、他人の前に出ることや他人をリードしていくことが苦手なのであろう。

さらに、「l. 自己理解」、「o. 自分は『やればできる』という自信」、「p. 努力をすること」の平均値はすでに4月から高いこと、「p. 努力をすること」の平均値はむしろ10月の方が下がっていること

キャリア開発のための基礎的スキルについて

表2 基礎的スキルに対する自信について (大学別調査時点比較)

項目	調査月	全体		P大学		Q大学		R大学	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
a. 大学の講義の理解度	4月	3.156	0.916	3.114	0.946	3.323	0.917	3.010	0.831
	10月	3.412 ***	0.829	3.537 ***	0.771	3.507 ***	0.811	3.069	0.863
b. 教養の深さ	4月	3.027	0.980	2.886	0.988	3.159	1.003	3.099	0.911
	10月	3.210 ***	0.874	3.206 ***	0.892	3.398 **	0.825	2.970	0.854
c. 流行しているモノや話題の多さ	4月	3.057	0.945	2.906	0.993	3.090	0.880	3.270	0.908
	10月	3.154 *	0.940	2.971	0.979	3.366 **	0.880	3.188	0.891
d. コンピューターの活用力	4月	2.733	1.140	2.526	1.174	2.925	1.077	2.842	1.111
	10月	3.122 ***	1.012	2.989 ***	1.031	3.134 *	0.972	3.337 ***	1.003
e. いつも冷静でいること	4月	3.215	1.033	3.126	1.029	3.400	1.016	3.130	1.041
	10月	3.287	1.046	3.110	1.102	3.485	1.031	3.327 *	0.918
f. リーダーシップ	4月	2.632	1.091	2.575	1.134	2.597	1.104	2.780	0.991
	10月	2.738 *	1.037	2.583	1.019	2.827 **	1.104	2.891	0.948
g. 数学的思考	4月	2.374	1.115	2.322	1.143	2.450	1.172	2.366	0.987
	10月	2.584 ***	1.115	2.446 *	1.117	2.692 **	1.182	2.683 ***	0.999
h. 体力	4月	3.292	1.161	2.994	1.190	3.368	1.145	3.703	0.985
	10月	3.341	1.121	3.131 *	1.194	3.439	1.072	3.574	0.993
i. プレゼンテーション能力	4月	2.660	1.010	2.466	1.057	2.750	0.976	2.880	0.913
	10月	2.701	1.037	2.417	1.035	2.970 **	1.029	2.840	0.929
j. 知性	4月	2.818	0.953	2.736	0.973	2.924	0.954	2.822	0.910
	10月	2.961 ***	0.951	2.823	0.951	3.113 **	1.020	3.000 *	0.825
k. 人付き合いや対人関係	4月	3.463	1.108	3.374	1.145	3.564	1.040	3.485	1.128
	10月	3.468	1.051	3.371	1.090	3.418	1.021	3.703 *	0.995
l. 自己理解	4月	3.400	1.008	3.253	1.083	3.571	0.948	3.426	0.920
	10月	3.502 *	0.945	3.423 *	1.019	3.485	0.932	3.663 **	0.816
m. 文章作成能力	4月	2.605	1.051	2.534	1.079	2.594	1.073	2.743	0.966
	10月	2.971 ***	0.952	2.868 ***	0.985	2.970 ***	0.909	3.149 ***	0.932
n. 高校までの勉強	4月	2.761	1.106	2.538	1.108	2.894	1.134	2.970	1.005
	10月	2.983 ***	1.098	2.743 **	1.108	3.149 **	1.121	3.178 *	0.974
o. 自分は「やればできる」という自信	4月	3.410	1.152	3.154	1.167	3.597	1.125	3.604	1.087
	10月	3.561 **	1.089	3.360 **	1.190	3.799 **	1.002	3.594	0.951
p. 努力すること	4月	3.515	1.128	3.354	1.088	3.545	1.212	3.752	1.043
	10月	3.477	1.064	3.240	1.104	3.602	1.029	3.723	0.960

*** p < .001 ** p < .01 * p < .05 (対応のある2標本検定)

も注目しておきたいポイントである。

2. 2 基礎的スキルの習得に対する自信の変化

前節では、キャリア開発の基礎的スキルに対する自信を得点化し、その平均値を4月と10月で比較した。その結果、平均値で見ると、多くの項目で学生は4月当初よりも、大学生活にある程度馴染んだ半年後の10月の方が、より自信が深まっているようである。しかし、すべての学生が半年後に自信を深めている訳ではない。本節では得点の伸びを見るために、10月の得点から4月の得点を差し引いた値についてみてみよう。

図1は、学生全員について集計したものである。その結果、すべての項目において約半数の学生は0点であり、変化がない。残りの学生についてみると、自信を深めている学生は約3割であるのに対して、逆に約2割の学生は自信を弱めている。特に自信を深めている学生の割合が多い項目は、順に「d. コンピューター活用能力」(42.0%)、「m. 文章作成能力」(40.5%)、「a. 大学の講義の理解度」(34.1%)、「n. 高校までの勉強」(33.7%)、「b. 教養の深さ」(33.2%)である(カッコ内の数値は1点～4点の合計人数の割合、以下同様)。一方、特に自信を弱めている学生の割合が多い項目は「p. 努力をすること」(26.8%)、「k. 人付き合いや対人関係」(26.1%)、「h. 体力」(24.9%)、「i. プレゼンテーション能力」(24.4%)と続いている(カッコ内の数値は-4点～-1点の合計人数の割合、以下同様)。

これらの結果から、「k. 人付き合いや対人関係」や「i. プレゼンテーション能力」など自信を弱めている学生が少なからず存在する項目は、「d. コンピューター活用能力」や「m. 文章作成能力」など自信を深めている学生が多い項目に比べて習得に時間がかかるか、あるいは、成果が現れにくいものではないかと考えられる。

特に、「k. 人付き合いや対人関係」については、高校まではクラス単位で活動することも多く、自分のごく身近な人たちとの付き合いで済ませることが多かったが、大学では個人的な活動が多くなる一方で、対人コミュニケーション能力が発達していないために、疎外感をおぼえ、自信を弱めているのではないだろうか。これらのスキルは通常の大学の講義で、継続的に習得できる環境を整える必要があると思われる。

図2から図4は大学別に集計したものであるが、大学間でかなりバラツキがあることが分かる。自信を深めた項目として、P大学では、「a. 大学の講義の理解度」(43.4%)、「d. コンピューターの活用力」(42.4%)、「m. 文章作成能力」(39.4%)、「b. 教養の深さ」(37.7%)の順となっている。Q大学では、「n. 高校までの勉強」(40.3%)、「m. 文章作成能力」(39.6%)、「d. コンピューターの活用力」(37.3%)、「b. 教養の深さ」(35.8%)、「f. リーダーシップ」(35.8%)と続いている。また、R大学では、「d. コンピューター活用力」(47.5%)、「m. 文章作成能力」(43.6%)、「g. 数学的思考」(40.6%)となっている。

一方、自信を弱めた項目として、P大学では、「p. 努力をすること」(31.4%)、「i. プレゼンテーション能力」(29.1%)、「k. 人付き合いや対人関係」(27.4%)、「f. リーダーシップ」(25.7%)が続

キャリア開発のための基礎的スキルについて

いている。Q大学では、「l. 自己理解」(28.4%)、「k. 人付き合いや対人関係」(27.6%)、「h. 体力」(25.4%)と続く。またR大学では、「h. 体力」(32.7%)、「b. 教養の深さ」(28.7%)、「o. 自分は『やればできる』という自信」(27.7%)、「c. 流行しているモノや話題の多さ」(26.7%)となっている。

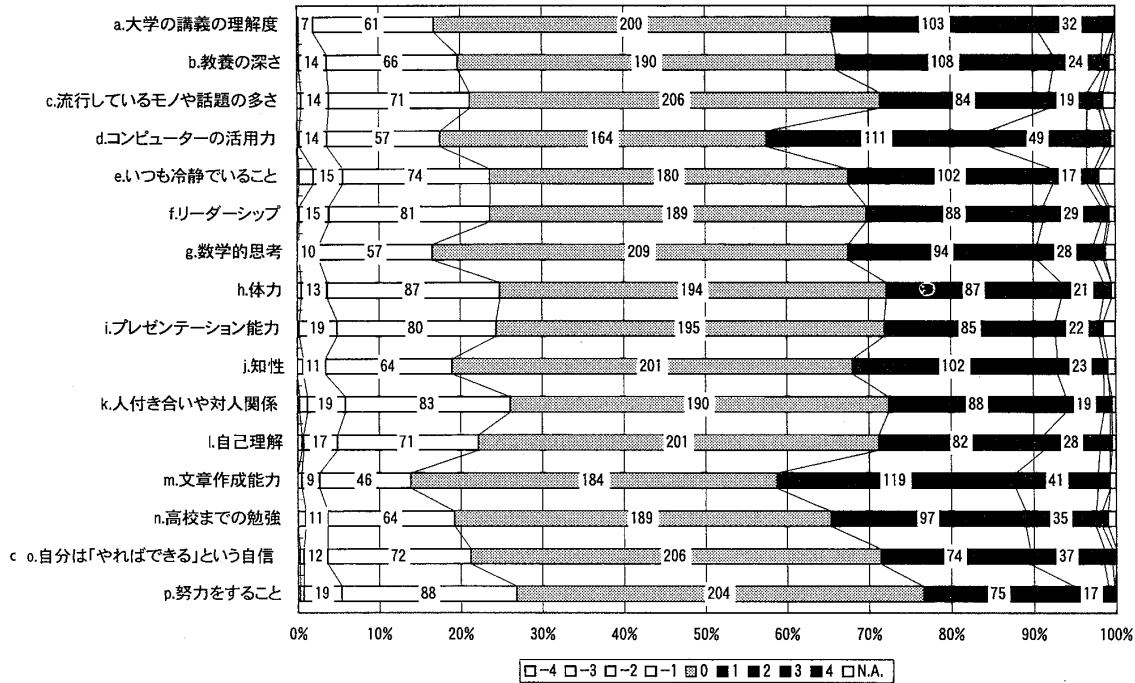


図1 全体の10月と4月の得点差 (n = 410, 数値は-2~2の度数)

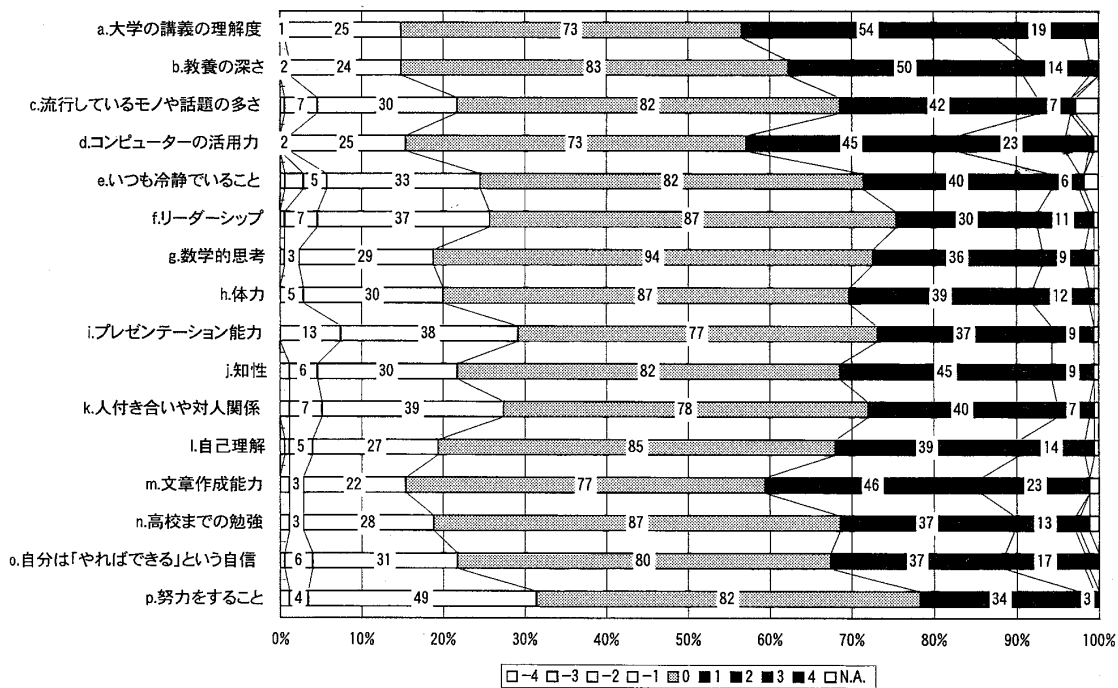


図2 P大学の10月と4月の得点差 (n = 175, 数値は-2~2の度数)

キャリア開発のための基礎的スキルについて

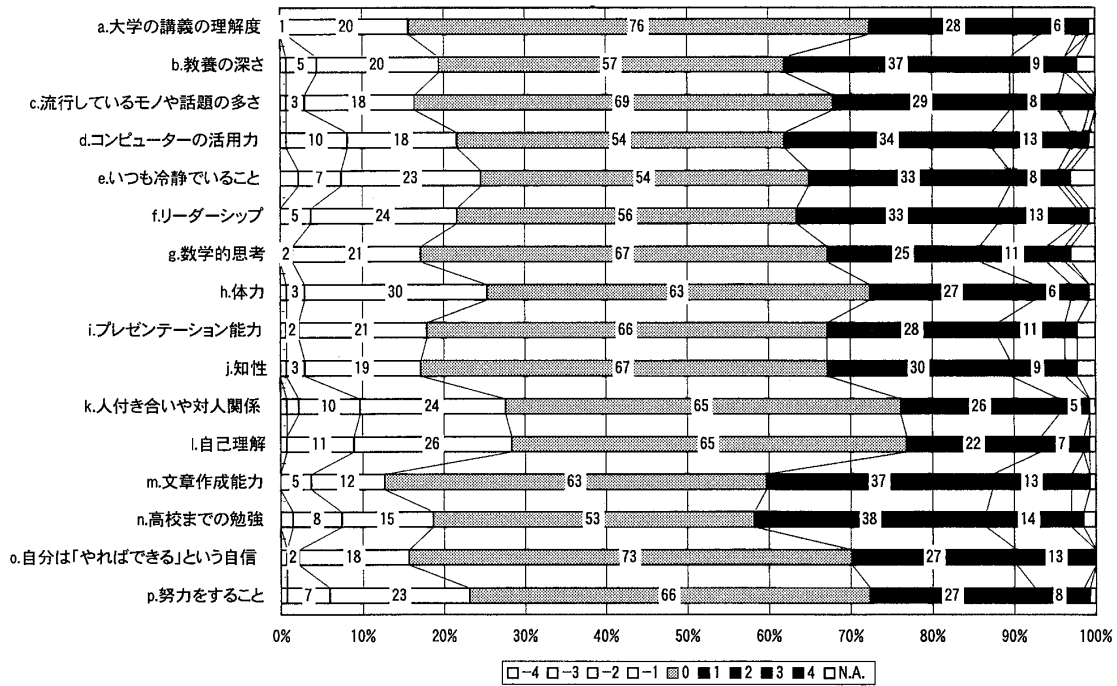


図3 Q大学の10月と4月の得点差 (n = 134, 数値は-2 ~ 2の度数)

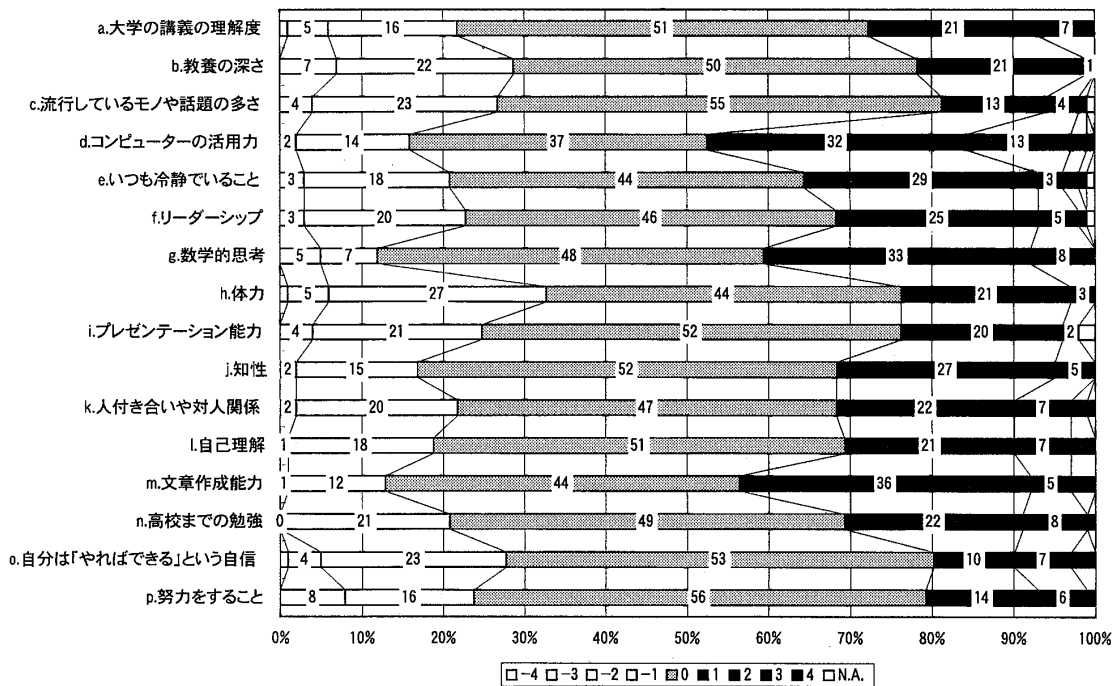


図4 R大学の10月と4月の得点差 (n = 101, 数値は-2 ~ 2の度数)

2.3 スキル間の相関

つぎに、キャリア開発のための基礎的スキルに対する自信の変化について、項目間で相関があるかを見てみたい。項目間の相関が観察されるならば、同時に複数の項目を習得させたり、互いの項目を

キャリア開発のための基礎的スキルについて

補完させたりするプログラムを開発することが考えられるからである。

表3～表5は、それぞれP大学、Q大学およびR大学における自信の変化の得点についての相関表である。

相関係数が0.4以上(表中の網掛け部分)の項目をあげてみると、Q大学では、「a. 大学の講義の理解度」と「b. 教養の深さ」(.551)、「b. 教養の深さ」と「c. 流行しているモノや話題の多さ」(.464)、「k. 人付き合いや対人関係」と「l. 自己理解」(.461)、「f. リーダーシップ」と「g. 数学的思考」(.458)、「n. 高校までの勉強」と「p. 努力すること」(.455)、「o. 自分は『やればできる』という自信」と「p. 努力すること」(.407)である。一方、R大学でも、「k. 人付き合いや対人関係」と「l. 自己理解」(.510)、「a. 大学の講義の理解度」と「b. 教養の深さ」(.492)が挙げられる。P大学では、相

表3 P大学における項目間の相関

P 大学	a. 講義の理解度	b. 教養の深さ	c. 流行・話題の多さ	d. コンピューター活用力	e. 冷静さ	f. リーダーシップ	g. 数学的思考	h. 体力	i. プレゼン能力	j. 知性	k. 対人関係	l. 自己理解	m. 文章作成能力	n. 高校までの勉強	o. 「やればできる」	p. 努力すること
a. 講義の理解度	1															
b. 教養の深さ	0.228	1														
c. 流行・話題の多さ	-0.024	0.124	1													
d. コンピューター活用力	0.175	0.217	0.242	1												
e. 冷静さ	0.022	0.118	-0.005	0.222	1											
f. リーダーシップ	0.050	0.107	0.049	0.029	0.019	1										
g. 数学的思考	0.060	0.203	0.088	0.133	0.102	0.255	1									
h. 体力	0.095	0.050	0.042	0.141	0.062	0.235	0.279	1								
i. プレゼン能力	0.069	0.161	0.051	0.161	0.207	0.144	0.150	0.198	1							
j. 知性	0.133	0.216	0.037	0.141	0.230	0.161	0.206	0.290	0.381	1						
k. 対人関係	0.057	-0.002	0.028	0.068	0.286	0.163	-0.032	0.044	0.116	0.129	1					
l. 自己理解	0.087	0.061	0.088	0.002	0.073	0.005	0.031	-0.095	0.161	0.215	0.201	1				
m. 文章作成能力	0.096	0.130	0.100	0.192	0.155	0.087	0.148	0.194	0.275	0.341	0.112	0.213	1			
n. 高校までの勉強	0.116	0.069	-0.018	0.153	-0.027	0.129	0.238	0.180	-0.006	0.091	-0.026	0.158	0.225	1		
o. 「やればできる」	0.089	0.027	0.047	0.077	-0.017	0.173	0.032	0.322	-0.006	0.171	0.085	0.120	0.165	0.360	1	
p. 努力すること	0.051	0.134	0.023	0.061	0.030	0.131	0.071	0.100	0.013	0.214	0.059	0.181	0.227	0.274	0.224	1

表4 Q大学における項目間の相関

Q 大学	a. 講義の理解度	b. 教養の深さ	c. 流行・話題の多さ	d. コンピューター活用力	e. 冷静さ	f. リーダーシップ	g. 数学的思考	h. 体力	i. プレゼン能力	j. 知性	k. 対人関係	l. 自己理解	m. 文章作成能力	n. 高校までの勉強	o. 「やればできる」	p. 努力すること
a. 講義の理解度	1															
b. 教養の深さ	0.551	1														
c. 流行・話題の多さ	0.219	0.464	1													
d. コンピューター活用力	0.195	0.240	0.196	1												
e. 冷静さ	0.070	0.167	0.177	0.168	1											
f. リーダーシップ	0.069	0.157	0.142	0.264	0.276	1										
g. 数学的思考	0.206	0.307	0.315	0.357	0.232	0.458	1									
h. 体力	-0.054	0.006	0.068	0.283	0.141	0.320	0.238	1								
i. プレゼン能力	0.082	0.240	0.189	0.200	0.332	0.310	0.383	0.296	1							
j. 知性	0.130	0.181	0.347	0.072	0.343	0.276	0.266	0.250	0.346	1						
k. 対人関係	0.135	0.163	0.313	0.225	0.257	0.191	0.105	0.157	0.035	0.235	1					
l. 自己理解	0.165	0.253	0.238	0.113	0.259	0.008	0.210	0.079	0.176	0.269	0.461	1				
m. 文章作成能力	0.353	0.310	0.075	0.060	0.180	0.157	0.214	-0.081	0.169	0.140	0.213	0.369	1			
n. 高校までの勉強	0.196	0.228	0.103	0.180	0.247	0.065	0.273	-0.016	0.236	0.222	0.170	0.198	0.245	1		
o. 「やればできる」	0.100	0.139	0.118	0.319	0.227	0.165	0.200	0.116	0.263	0.142	0.341	0.261	0.367	0.332	1	
p. 努力すること	0.102	0.135	-0.024	0.109	0.181	0.100	0.202	-0.063	0.108	0.015	0.218	0.297	0.291	0.455	0.407	1

表5 R大学における項目間の相関

R大学	a. 講義の理解度	b. 教養の深さ	c. 流行・話題の多さ	d. コンピューター活用力	e. 冷静さ	f. リーダーシップ	g. 数学的思考	h. 体力	i. プレゼン能力	j. 知性	k. 対人関係	l. 自己理解	m. 文章作成能力	n. 高校までの勉強強	o. 「やればできる」	p. 努力すること
a. 講義の理解度	1															
b. 教養の深さ	0.492	1														
c. 流行・話題の多さ	0.160	0.295	1													
d. コンピューター活用力	0.202	0.277	0.133	1												
e. 冷静さ	0.151	0.100	-0.021	0.098	1											
f. リーダーシップ	0.081	0.082	-0.002	-0.020	0.070	1										
g. 数学的思考	0.218	0.195	0.079	0.094	-0.070	0.372	1									
h. 体力	-0.179	-0.108	0.203	-0.145	0.018	0.100	0.037	1								
i. プレゼン能力	0.056	0.283	0.082	0.215	-0.064	0.173	0.160	-0.021	1							
j. 知性	0.100	0.219	0.143	0.149	0.222	0.267	0.166	0.017	0.340	1						
k. 対人関係	-0.063	-0.002	0.062	0.307	0.247	0.182	0.064	-0.084	0.085	0.249	1					
l. 自己理解	0.168	0.220	0.213	0.273	0.218	0.297	0.108	0.034	0.210	0.251	0.510	1				
m. 文章作成能力	0.234	0.132	0.188	0.130	0.037	0.109	0.073	0.015	0.306	0.185	0.150	0.244	1			
n. 高校までの勉強強	-0.047	0.109	0.153	0.086	-0.050	-0.146	-0.043	0.089	0.232	0.214	0.067	0.101	0.254	1		
o. 「やればできる」	-0.067	0.032	0.151	0.109	0.236	0.095	-0.038	0.069	0.153	0.359	0.293	0.188	0.118	0.174	1	
p. 努力すること	0.044	0.067	0.162	0.177	0.243	0.104	-0.012	0.007	0.009	0.308	0.264	0.168	0.150	0.261	0.367	1

相関係数が0.4以上の項目はなかった。その他、「i. プレゼンテーション能力」と「j. 知性」は3大学とも相関係数が0.3を上回っており、弱い相関が見られる。

Q大学とR大学において「大学の講義の理解度」と「教養の深さ」の相関が高くなっているが、学生が何を教養と考えるかによって、あるいは、一年次春学期(前期)の講義科目の内容によって、この2項目の相関の強さが大学間で異なってくると思われる。

対人コミュニケーションに自信を深めている学生は、自己に対する理解も深められているようである。友人をはじめ、自分を取り巻く人々の中で自分の位置を定めることによって、自己のアイデンティティを確立しているのではないかと考えられるからである。特に、大学への早期の適応を考えるならば、1人ひとりの学生に対して、自分の位置を定められるようなプログラムが、入学後の早い段階で実施されることが必要ではないかと思われる。

プレゼンテーションは、自分の知り得た事実や意見を他者にわかりやすく論理的に説明しなければならない。そのためには、事実や意見をしっかり筋道立てて話ができるように頭の中で整理することが必要である。プレゼンテーションが上達していれば、論理的な思考がある程度可能であり、知性に対しても自信を持てるようになるのかも知れない。すなわち、論理的思考によってプレゼンテーション能力をある程度向上させることが可能なのではないだろうか。

3. 「異文化体験プログラム参加者調査」より

3.1 プログラムによるスキルの向上

関西国際大学人間学部人間行動学科では、毎年1年生を対象に「異文化体験研修旅行」を実施している。この研修旅行は、関西国際大学の提携校である韓国の東西大学へ出向き様々なプログラムの体

験を通して学生間の交流を深めることを目的に行われている。

ここでは、平成15年度に研修旅行を体験した学生に対して実施した「異文化体験プログラム参加者調査」より、特にスキルに関する部分について概観する。

質問は、プログラムを通して以下の項目の能力が向上したかを尋ねた。

表6 能力に関する質問項目

a. 外国との文化の違いや共通点の理解	f. 分析力
b. 外国人とのコミュニケーションの仕方	g. 企画力
c. 観察力	h. 計画性
d. 自己管理能力	i. 正しい日本語の使い方
e. グループワークの進め方	j. 論理性

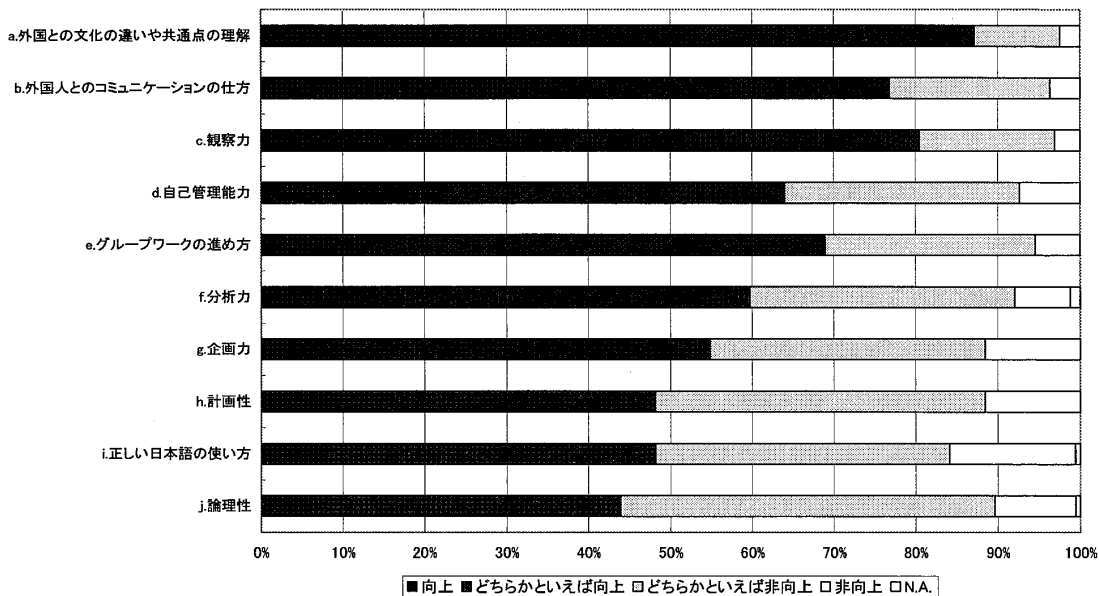


図5 能力が向上したと思うか

結果は、図5のとおりである。スキル項目の順番は、「向上した」1点、「どちらかといえば向上した」2点、「どちらかといえば向上しなかった」3点、「向上しなかった」4点としたときの得点合計の低いもの順である。

このプログラムの主目的である「a. 外国との文化の違いや共通点の理解」および「b. 外国人とのコミュニケーションの仕方」は最も向上したと感じており、「c. 観察力」が続いている。逆に、あまり向上したと思えない能力は、「j. 論理性」、「i. 正しい日本語の使い方」、「h. 計画性」、「g. 企画力」である。

3. 2 スキル間の相関

続いて、適応過程に関する調査と同様に、各スキルの相関について見てみよう。結果は、表7に示している。

相関係数が、0.4以上の項目を挙げてみると、「g. 企画力」と「h. 計画性」(.540)、「e. グループ

キャリア開発のための基礎的スキルについて

ワークの進め方」と「g. 企画力」(.518), 「a. 外国との文化の違いや共通点の理解」と「c. 観察力」(.467), 「c. 観察力」と「e. グループワークの進め方」(.439), 「b. 外国人とのコミュニケーションの仕方」と「e. グループワークの進め方」(.436), 「b. 外国人とのコミュニケーションの仕方」と「c. 観察力」(.402)である。

この中で特に注目したいのは、グループワークと観察力である。どのようなプログラムでもグループで何かプログラムを為すためにはしっかりとした企画と計画を立てなければならず、また実際にプログラムがうまく機能しているかを見極めるためには観察する力が重要になってこよう。特に、対人コミュニケーションの苦手な学生にとってもグループワークは有用な訓練になると思われる。

表 7 項目間の相関

	a. 異文化理解	b. 外国人とのコミュニケーション	c. 観察力	d. 自己管理能力	e. グループワーク	f. 分析力	g. 企画力	h. 計画性	i. 正しい日本語	j. 理論性
a. 異文化理解	1									
b. 外国人とのコミュニケーション	0.364	1								
c. 観察力	0.467	0.402	1							
d. 自己管理能力	0.329	0.328	0.280	1						
e. グループワーク	0.333	0.436	0.439	0.235	1					
f. 分析力	0.376	0.241	0.328	0.246	0.347	1				
g. 企画力	0.213	0.260	0.319	0.140	0.518	0.323	1			
h. 計画性	0.125	0.183	0.193	0.348	0.333	0.174	0.540	1		
i. 正しい日本語	0.162	0.184	0.145	0.216	0.185	0.202	0.211	0.221	1	
j. 理論性	0.191	0.186	0.251	0.210	0.271	0.337	0.325	0.317	0.265	1

4. まとめ

以上、本稿では、キャリア開発に必要となる基礎的スキルについて2つの調査結果を概観してきた。

その結果、半年間でコンピューターの活用力や文章作成能力などの習得に自信をもつ学生が多い反面、リーダーシップやプレゼンテーション能力など習得に時間のかかるスキルもあり、入学当初よりも半年後の方が自信を弱めている学生が少なからず存在していることが分かった。また、異文化体験プログラムでは、外国人に対するコミュニケーション能力が向上したと感じている学生が多い反面、企画力、計画性、日本語、論理性についてはあまり向上していないと考える学生が多かった。このプログラムは外国人とのコミュニケーションに対する動機付けとして有効ではあるが、日本人同士のオフィシャルなコミュニケーションについて継続的な訓練が必要ではないかと思われる。

さらに、基礎的スキルには相互補完的に向上が望めるものがあることが分かった。今後、さらに綿密な調査を行い、共分散構造分析などの手法を用いて、基礎的スキルを養成するためのより効率的なプログラムを作成することも視野に入れたいと思う。

参考文献

- 1) 伊藤格夫：「管理能力の評定に関する一考察：自己評定・相互評定・上司評定の共分散構造分析」
関西実践経営第 25 号 2003 13 - 26 頁
- 2) 伊藤格夫：「学習プロセスの因子構造に関する一考察：研修終了時アンケートの共分散構造分析」
関西実践経営第 26 号 2003 43 - 49 頁
- 3) 上村和美, 藤木清：『学習技術診断テスト』の開発と実践について：平成 13 年度実施結果より」
平成 12 ～ 13 年度科学研究費補助金研究「日本の大学におけるスタディ・スキル・テストの開
発に関する研究」研究成果報告書 2002 44 - 79 頁
- 4) 学習技術研究会：『知へのステップ』くろしお出版 2002
- 5) 藤木清：「データの整理に関するスキル：大学と初等中等教育機関との接続」平成 13 ～ 14 年度
科学研究費補助金研究「大学入学時におけるスタディ・スキルズの教材開発と運用に関する研究」
研究成果報告書 2003

Abstract

This research analyzed about the confidence in the fundamental skills of the freshman in a university. As a result, it turned out that there are many students who have confidence especially in practical use of a computer and text creation in the first half year of college. On the other hand, there are also many students who have lost confidence in leadership and presentation. Moreover, we found that the confidence in some skills are correlated in some universities.